

駿河ほねほね団報告

テンの仮剥製作り

山本幸介

現在開催中の企画展「標本サファリー大地の動物・水の動物」の中に、テンの仮剥製ができるまでの工程を動画で説明するコーナーがあります。動画撮影には私も微力ながら協力させていただきました。この記事では少し説明を補足しながらテンの仮剥製製作法についてご紹介します。

1 外部計測

まずテンの全長、体の各部の長さ、体重をはかります。また生殖器を観察して雌雄を識別します。これらのデータは、標本の価値を決める貴重な情報となるのできちんと記録を残します。

2 皮剥ぎ

テンを仰向けにし、首元からお腹にかけて胸の真ん中（正中線といいます）に解剖用メスで切り口を作ります。その切り口から皮をめくっていきます。哺乳類の皮は鳥類と違って、厚くて丈夫です。誤って破いてしまうことはあまりありませんが、皮に筋肉や脂肪が残ってしまうことが多く、綺麗に取り除かないと後々剥製が腐ってしまう原因となります。ですので丁寧に根気よく取り除いていく必要があります。

3 防腐処理（なめし）

手と足、尾っぽの骨だけ皮に残し、皮を身体から完全に切り離したら（写真1）、一度水洗いし、ドライヤーで乾かします。その後、皮の内側に防腐剤を塗っていきます（写真2）。防腐剤はミョウバンとホウ酸と防虫剤を混ぜたものです。鳥類や小型哺乳類だったら、この方法が防腐処理となるのですが、中大型サイズの哺乳類になると、防腐剤を塗り込むだけでは不十分で、ミョウバン液に1週間程度漬け込む方法が取られることが多いです。テンだとギリギリ防腐剤を塗る方法で、済ませることができるといったところでしょうか。

4 整形と乾燥

防腐処理が終わったら皮に中身を詰めていきます。材料にはウレタン材などが用いられることもありますが、今回は頭部と四肢には綿を、それ以外の胴体には木毛（もくもう）を詰めました。木毛は梅雨時期など湿度が高い時期は水分を吸収し、湿度管理の面でとても良い材料といえます。中身

を詰め終わったら、最初に開いた胸の切り口を糸と針で縫い合わせます。最後は発泡スチロール板に体を寝かせ、まち針で手足などを固定し整形し乾燥させます。耳は乾燥すると形が崩れやすいので、型紙で挟んでおきます（写真3）。

以上は、今回展示されているテンの仮剥製の製作工程です。剥製の作り方、使用する材料・薬品などは様々なものがあります。あくまでも1つのやり方として知っていただければと思います。

最後に告知ですが、8月23日（土）24日（日）に企画展にあわせたイベント「骨や毛皮にハズオン！ 標本さわり」が開催されます。駿河ほねほね団も協力しますので、お楽しみに。



写真1



写真2



写真3